

大学における子育て支援 —地域で繋がる新しい出会い—

宇都宮共和大学 子ども生活学部



発表の流れ・目次

1. 親子遊びの会の意義と目的
2. 親子遊びの会の活動と2024年度の活動方針
3. 本事業の取り組み
4. これまでの活動報告
5. 気づきおよび今後取り組みたいこと

親子遊びの会とは

- 参加者は、**地域の子育て家庭**であり、子どもの年齢は主に0歳～6歳としている。
- 活動は、親子で過ごす時間、保護者と教員の懇談、子どもの遊びの時間で構成される。
- 学生は、自主的に参加している1年生～4年生である。
- 学生は、親子で過ごす時間には活動のテーマを設け、活動の計画と準備、当日の運営、遊びの支援を行う。

親子遊びの会の意義と目的



子育て支援
研究センター

親子遊びの会

子どもの遊びの支援
親子関係の支援
子ども・家族同士の繋がり
作り支援

教員のサポートのもと、学生スタッフが主体的に運営に携わり、子どもと子どもと保護者への関与も経験できることで、学生の保育実践力やコミュニケーション能力などの養成に繋げることが可能

2024年度の活動方針

- ・ 2024年度は、新たな活動目標を『地域で繋がる新しい出会い』をテーマに、地域の子育て支援団体・サークルなどとも連携し、地域の子育て支援ニーズを掘り起こしつつ、本学が地域の子育て支援の拠点のひとつとして役割機能を充実させることを目指す。
- ・ 地域連携を通して新たなネットワークを構築し、地域との関係を強化することで、栃木県の「笑顔輝く子ども・子育て支援プロジェクト」の一助になるものと期待できる。

2024年度の活動

1. 7/6 親子イベント「七夕の会」
2. 8/24 親子遊びの会 特別研修
「保護者 支援について」
3. 11/9 親子イベント
「親子フィットネス」
4. 12/7 クリスマスマーケット
5. 12/15 親子イベント
「お正月遊び」

1. 「親子フィットネス」実施



親子フィットネス① 親子でフィットネス

フィットネスのコーチを中心に保護者、子ども、学生とコミュニケーションを取り、たくさん体を動かし楽しんでいる姿が見られた

親子フィットネス② サーキット遊び

マットや、フラフープ、トンネル、跳び箱、巧技台などを使い円になるように配置し、安全面を配慮しながら子どもたちが伸び伸びとたくさん体を動かせるような環境を構成した

親子フィットネス③ 保護者向けフィットネス

最初は子どもと離れることから、気にかけてながら行っている保護者の方がいたが、学生が子どもたちと関わっていたことで、保護者だけの時間をサポートできたのではないかと思う

親子フィットネス④ 子どもの遊びコーナー

遊びコーナーで子どもたちが遊べるよう環境を設定した

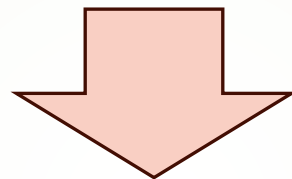
コーナーで遊ぶことによって緊張がほぐれる様子も見られ、安心して遊べる環境があることで、子どもたちの遊びの発展につながると感じた

親子フィットネス⑤ 子どもの遊びコーナー

コーナーを設定した事で、子どもたちは夢中になって遊ぶことができ、保護者の方々にも十分にフィットネスを経験して体を動かせる機会を作ることができたと思う

親子フィットネス⑥ 活動を通して

遊びと遊びの間隔を広めに設定することで保護者が子どもの遊びを見守りやすく、安全面に配慮することができる



子どもと保護者が安心してフィットネスを行うことができた

2. 「お正月遊び」 実施



お正月遊び① 準備



お正月遊び② 餅つきごっこ

最初に場所に慣れ、緊張がほぐれるよう餅つきごっこを行った

お正月遊び③ 身近なものでだるま落とし

子どもたちはダイナミックに体を動かし、周りの保護者の方々は、子どもが遊びに取り組めるように協力する姿が見られた

お正月遊び④ 凧作り

子どもたちは自分の好きな凧を選び、絵を書いたり、ハサミで切ったり、集中して制作していた

制作後は、作った凧を嬉しそうに飛ばす姿も見られた

お正月遊び⑤ けん玉作り

制作後は作ったけん玉で遊び、紙コップに入れることに
何度も挑戦している姿が見られた

お正月遊び⑥ お正月の絵本、ペープサート

活動の最後にはお正月を題材とした絵本・ペープサートを行った

読み聞かせでは「だるまさんが」「おもち」を読み、絵本ならではの繰り返しを楽しんでいた

お正月遊び⑦ 活動を通して

- 部屋をお正月飾りや干支であるへビを飾ることで子どもたちが興味を持ちながら活動に入ることができた
- 活動の順番を見直した結果、子どもたちの緊張がほぐれ、遊びを自分なりに楽しむ様子が見られた

3. 「クリスマスマーケット」に参加



2024年度後半までの活動からの気づき

1. 宇都宮共和大学のキャンパス以外の様々な場所で活動を行うことで、支援の幅を広げることができる
2. 季節による活動は参加者にとって身近なものであり、地域の人とイベントを通して関わることで季節に触れる大切さや親しみを持ちイベントに参加することで様々な交流を増やすことができる
3. 子育て支援に関する専門職の方々との連携を図ることが重要性である

今後取り組みたいこと

1. 活動を開催するにあたって、広報活動に力を入れ、より多くの親子に参加していただけるよう努める
2. 他学部・他学科と連携して、子どもとの交流の機会を充実させる
3. 参加された保護者の方々からの感想や意見を共有し、意見交換を通じて共通の理解を図る

ご清聴ありがとうございました。

宇都宮共和大学 親子遊びの会